

平成30年4月2日

京都大原学院 平成30年度 学校教育目標・経営方針

O. 京都大原学院の使命・役割（大原に学校がある理由）

- ・地域の文化継承を目的とする後継者育成
- ・「結い」の精神を引き継ぐ地域の学習センター（0～15歳の学舎）
- ・コミュニティスクールの全国モデル
- ・小規模小中一貫教育のリーダー的存在

1. 今年度の位置付け

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| ◇京都大原学院開設10年目 | →10年の成果と課題の検証 |
| ◇第4回小中一貫教育小規模校サミット | →本校開催成功を次の大会につなげる |
| ◇義務教育学校1年目 | →義務教育学校で変わること変わらないことの共有 |
| ◇次期指導要領実施に向けて | →道徳・英語活動、キャリア教育に重点を置く |

2. 学校教育目標と目指す子ども像

◇学校教育目標

「大原のゆとりある心を 自信をもって伝えられる子に！」

◇目指す子ども像

- ①思いやりをもち、自ら汗のかける子の育成
 - ・礼儀正しく、どんな人にでもていねいに思いやりをもって接することができる。
 - ・清掃、農作業、いろいろな行事などの準備、後片付けなど勤労作業をいとわず、自分から仕事を見つけて動ける。
- ②科学的思考のできる子の育成
 - ・自分の頭で物事を考え、データを基に、根拠をもって説明することができ、人の考えを取捨選択した上で、きちんと伝えられる。
 - ・世の中の動きや流れに目を向け、常に先の見通しをもち、現状を科学的に見据えながら地域の将来を考えていける。
- ③コミュニケーション力を発揮できる子の育成
 - ・きちんとした日本語を使い、相手に自分の意志を正しく伝えられる。
 - ・大勢の前で堂々と発表できる。
 - ・見知らぬ人にも躊躇せず話すことができ、自分の考えをきちんと伝えられる。
 - ・日常的に使う日本語を英語で会話することができ、見知らぬ人や外国人にも大原の良さを伝えられる。

3. 経営方針（京都大原学院が目指すこと）

～縦と横のつながりを大切にして、卒業時・卒業後の姿に責任を持つ～

（1）子どもたちに向けて

- ・一人ひとりの夢の実現のために、「学力」も「人間力・社会性」も伸ばす。
- ・自尊感情を高め、互いを尊重することの大切さを学び、人権の担い手となる子を育てる。
- ・地域の伝統文化を継承し、地域への誇りと愛着を育み、地域の未来を創り出す子を育てる。
- ・地域貢献のキャリア教育（生き方探究教育）を推進し、多くの大人と関わり、より良い地域や社会をつくる力を育てる。
- ・「命を守る」視点から、自他を大切にし、安心・安全な環境づくりの担い手に育てる。
- ・英語に力を入れ、グローバルな視点で考え、コミュニケーション力を発揮できる子を育てる。
- ・全ての学校生活の中で、人とのつながりを大切にできる子を育てる。

（2）教職員に向けて

- ・「チーム大原」を意識し、自分の仕事に責任をもち、助け合う・支えあう職場をつくる。
- ・ひとりの社会人・公務員としての自覚と責任を常に持ち続ける。
- ・地域の教育資源を取り入れた授業や行事を積極的に行う。
- ・全ての授業を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現させる。
- ・授業力向上のため、研究授業や他学年交流、また校外での研修を推進する。
- ・全国学力調査や各種検査で明らかになった課題を分析し、授業に活かす。
- ・支援を必要とする子どもたちの理解のため、教職員研修（子どもの見方）を行う。

（3）家庭・地域に向けて

- ・日常の家庭・地域と関わりを深める。
- ・家庭で自学自習の習慣をつけるため、家庭の役割を確認し、教育力を高める。
- ・薬物乱用防止やスマホ依存対策など、地域・家庭での安心安全な環境づくりを支援する。
- ・「持ちつ持たれつ」の考え方で、地域・家庭と学校が双方向で関わっていく。

（4）地域外に向けて

- ・奈良教育大学と連携を深める。（学力分析、奈良教育大学4回生地域滞在型教育実習）
- ・第4回小中一貫教育小規模校サミットを開催する。
- ・広島宮島学園、奈良田原小中学校を含め、全国の小規模校と交流を深める。
- ・学校や地域での取り組み、成果を、広く発信する。